

おいしい 美味しい おいしい お話

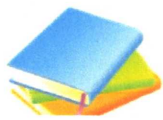
令和元年 11月



11/12 (火) の給食に
ちなんで本を紹介します。

11/12 の献立
スウェーデン風スパゲティ
イタリアンスープ
くだもの 牛乳

紹介した本は
学校図書館で展示中。
借りられます！



もっと スウェーデン

みなさんはスウェーデンという国についてどんなことを知っていますか？ 先月受賞者が発表され話題になったノーベル賞でも有名ですね。創設者のノーベルはスウェーデンの発明家です。福祉や社会保障の充実した国としても知られ女性の社会進出も進んでいます。リンドグレーンの作品やスウェーデンに興味を持った人におすすめの本を2冊紹介します。『北欧に学ぶ小さなフェミニストの本』（サッサ・ブレイグレーン／著 岩崎書店）は今もある男女の不平等に気づいた女の子を主人公に、スウェーデンの児童文学者のメッセージが込められた作品。挿絵や装丁がかわいい素敵な本です。もう1冊は『北欧女子オーサが見つけた日本の不思議』（オーサ・イエークストロム／著 メディアファクトリー）。スウェーデン人の作者は日本のアニメと漫画が好きで一心で来日、日本語で作品を描いています。”好き”の力はすごい。外国人ならではの気づきが面白い作品です。

スウェーデン風スパゲティ →スウェーデン

『やかまし村の子どもたち』

アストリッド・リンドグレーン／著 岩波書店

今月の「おいしいお話」はいつもと趣向を変え、給食の献立から“スウェーデン”という国に注目してスウェーデンの美味しい食べ物がたくさん出てくる物語を紹介します。

「やかまし村」には家が3軒しかなく、子どもは男の子と女の子が3人ずつの全部で6人。小さな村の中と、少し離れた学校。物語の舞台はほんの狭い範囲ですが、家の中でも通学路でも近所の森へのピクニックでも、みんな何かしら工夫し遊びを考え、楽しみを見出します。家のお手伝いも当たり前なので料理や裁縫、大工仕事だって子どもたちで出来ます。

作者のリンドグレーンはスウェーデンの作家です。『長靴下のピッピ』をはじめ2014年にアニメ化された『山賊の娘ローニャ』などたくさんの児童文学を書いて世界中で翻訳されています。

『やかまし村の春・夏・秋・冬』『やかまし村はいつもにぎやか』とシリーズは全3冊。小学校で読んだことがある人もいるかと思います。リンドグレーンが子どものころの体験がもとになった作品と言われていて、描かれている100年近く前のスウェーデンの農村の暮らしがとても魅力的。私も小学生のときに読み、この本で初めてスウェーデンという国を知りました。

クリスマスに焼く「ショウガ入りクッキー」、「タフィー」、絶対食べたくないらしい「ニシンのサラダ」、「冷たい肉入りパンケーキ」、「上等のあぶりソーセージ」、とれたての「ザリガニ」。当時、どんな味だろうと想像しながら印象に残った食べ物の数々。一度読んだことがある人も、またこの世界に戻れると思うとわくわくしてくる物語です。

